

「第11次宇都宮市交通安全計画」の令和3年度の実績・評価

①計画指標の達成状況

※「理想値」…令和7年の目標値に対し、一次関数的に推移していった場合の毎年の数値の上下30%の数値について一の位を四捨五入したもの(数値が約100件以下のものは一の位を四捨五入せず、小数点以下を四捨五入)

成果指標名		現状値	実績					目標値	評価
交通事故発生件数	人身事故の発生件数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	1,040件以下	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故発生件数は令和2年より減少し、過去最小値となった。 令和7年の目標値の達成に向け、順調に減少している。
		1,368件	1,281件						
		理想値※	1,290~1,320件	1,220~1,250件	1,160~1,190件	1,090~1,120件			
交通事故死者数	交通事故の発生から24時間以内に死亡した者の数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	8人以下	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故死者数は令和2年より減少した。 令和7年の目標値の達成に向け、順調に減少している。
		13人	12人						
		理想値	11~13人	10~12人	9~11人	8~10人			
交通事故重傷者数	交通事故により受傷し全治1ヶ月(30日)以上と診断された者の数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	90人以下	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故重傷者数は令和2年より減少した。 令和7年の目標値の達成に向け、順調に減少している。
		131人	106人						
		理想値	120~125人	112~117人	104~109人	96~101人			

②「重点的に対応すべきターゲット」の成果指標の達成状況

成果指標名		現状値	実績					目標値	評価(成果や課題)
子どもや高校生の安全確保	子どもが関係する交通事故発生件数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	60件以下	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが関係する交通事故発生件数は令和2年より減少しており、令和7年の目標値の達成に向け、順調に減少している。 各世代の特性に応じた交通安全教育や通学路の安全確保等を着実に実施できたことが要因として考えられる。
		95件	85件						
			理想値	86~90件	79~83件	72~76件	65~69件		
	高校生が関係する交通事故発生件数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	60件以下	<ul style="list-style-type: none"> 高校生が関係する交通事故発生件数は令和2年より減少しており、令和7年の目標値の達成に向け、順調に減少している。 高校生を対象とする各種交通安全教室や、自転車利用者に対する街頭指導などの交通安全教育やルール遵守の意識醸成の取組等を着実に実施したことが要因として考えられるもの、高校生の交通事故の形態別では自転車乗車中が8割を超えている。 ⇒高校生の自転車安全利用の推進に重点的に取り組んでいく必要がある。
107件		93件							
		理想値	95~100件	85~91件	76~82件	67~72件			
高齢者の安全確保	高齢者が関係する交通事故発生件数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	400件以下	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が関係する交通事故発生件数は令和2年より増加した。 高齢化の進行による高齢化率の上昇や、新型コロナウイルス感染症の影響により高齢者を対象とした交通安全教室を十分に開催できなかったことが要因として考えられる。また、個人差はあれど加齢に伴う様々な身体機能の低下により、交通事故を起こす運転リスクが高まっていくものと考えられる。 ⇒高齢者を対象とした身体機能測定器等を活用した交通安全教育の機会の拡充が必要である。
		474件	477件						
		理想値	450~460件	440~450件	420~430件	410~420件			
自転車利用者の安全確保	自転車が関係する交通事故発生件数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	270件以下	<ul style="list-style-type: none"> 自転車の交通事故発生件数は、令和2年より減少しており、令和7年の目標値の達成に向け、順調に減少している。 自転車利用者に対する各種交通安全教育の実施や、自転車利用環境の総合的整備等を着実に実施したことが要因として考えられるもの、世代別人口1万人あたりの自転車事故当事者数では依然として高校生が突出して高い。 ⇒高校生の自転車安全利用の推進に重点的に取り組んでいく必要がある。
		484件	443件						
		理想値	430~450件	390~410件	340~370件	300~330件			